2014　愛知県立大学スクールソーシャルワーク教職員研修

ニューズレター　No.6　2015年3月5日

School Social Work Teacher Training Program Newsletter　発行：SSW 教職員研修事業事務局
（TEL & FAX: 0561-76-8724　tsuboi@ews.aichi-pu.ac.jp）

スクールソーシャルワーク教職員研修参加者の皆さん　こんにちは。年度末で猛烈にお忙しいなか、プレゼンテーションに向けたレジュメをお送りくださりありがとうございました。

さて、本研修プログラムも、最終回となりました。第６回の３月７日は、皆さんのプレゼンテーションと修了の集い（打ち上げ茶話会）です。

■　第6回 3月7日のプログラムのご案内

1:00～1:05　連絡事項
1:05～2:30　グループごとに１人、質疑を含めて 15 分から 20 分のプレゼンテーション。その後、全体会での発表者１名を推薦決定してください。
（休憩　10 分）
2:40～4:00　全体会で各グループから１人、計４人のプレゼンテーション（一人 20 分）
(休憩　10 分)
4:10～5:00　修了の集い（茶話会、記念撮影）

■　修了プレゼンテーションのグループ別サブテーマ一覧

３月７日の発表レジュメは、結局 21 名の方が提出してくださいました。その発表レジュメ集（全 130 頁）の目次を以下に紹介します。サブタイトルでは、不登校の事例を扱っているかたが多いようです。力作がそろっており、研修プログラムの有効性に確信を持つことができました。講師一同、今回、提出を見送られた参加者の皆様を含めまして、本事業へのご協力に心よりお礼申し上げます。

【Ａグループ】	＜サブタイトル＞	頁
Ａ－１	（教職員）「ソーシャルワークの技法を用いた学年運営の在り方」	１
Ａ－２	（教職員）「不登校の子ども支援を中心にして」	６
Ａ－３	（相談員等）	
Ａ－４	（相談員等）　＜3 月 7 日欠席＞	
Ａ－５	（教職員）「経済的な困難を抱える家庭を支援する小・中学校の連携を通じて」	１４
Ａ－６	（教職員）「不登校の子ども支援を中心にして」	２１
Ａ－７	（相談員等）「保護者にも支援が必要な児童のへ支援」	２８

講師：　　ＴＡ：酒井多輝子

【Ｂグループ】	＜サブタイトル＞	頁
Ｂ－１	（教職員）　＜3 月 7 日欠席＞	
Ｂ－２	（相談員等）「不登校の子どもの支援を中心にして」	３４

Ｂ－３	（教職員）「不登校・特別支援の子ども支援を中心にして」	４２
Ｂ－４	（相談員等）「不登校気味の児童及び母親の支援を中心にして」	４６
Ｂ－５	（教職員）「外国籍の子ども支援を中心にして」	５３
Ｂ－６	（教職員）「不登校の子どもの支援」＜3 月 7 日欠席＞	５９

講師：　　ＴＡ：杉原里子

【Ｃグループ】　　＜サブタイトル＞　　頁

Ｃ－１	（教職員）「障害のある子どもをもつ家庭の母親支援を中心として	６４
Ｃ－２	（教職員）「不登校の子どもを抱える母子家庭の支援を中心にして」	７２
Ｃ－３	（相談員等）「学校を子どもたちのセーフティネット」	８０
Ｃ－４	（教職員）「貧困家庭の子ども支援を中心にして」＜3 月 7 日欠席＞	８８
Ｃ－５	（教職員）「経済的困窮家庭の子ども支援を中心にして」	９３
Ｃ－６	（相談員等）「非行傾向の子ども支援を中心にして」	９８

講師：　　ＴＡ：早川真理

【Ｄグループ】　　＜サブタイトル＞　　頁

Ｄ－１	（教職員）「保護者対応・信頼関係を築く支援を中心にして」	１０４
Ｄ－２	（教職員）「発達障がいがある児童と保護者の支援を中心として」	１０８
Ｄ－３	（相談員等）「発達障害の子ども支援を中心にして」	１１４
Ｄ－４	（教職員）	
Ｄ－５	（教職員）　＜3 月 7 日欠席＞	
Ｄ－６	（教職員）「問題の発生を予防するための家庭支援の取り組みを中心にして」	１１９
Ｄ－７	（相談員等）「経済的困窮家庭の子ども支援を中心にして」	１２４

講師：　　ＴＡ：水野みち代

■　「修了レポート」提出のお願い

- 提出期限＝３月 16 日(月)午前９時まで
- 提出方法・場所＝SSW 教員研修事務局（ningen-h@bur.aichi-pu.ac.jp）に添付ファイルで送ってください。
- レジュメの内容（量）＝３月７日の発表における質疑を踏まえて、レジュメに加筆修正し作成してください。分量は、発表レジュメ同様に、アセスメントシートや事例を含めて６～10 枚（頁）で作成してください。
- 修了レポートには、氏名（所属）を記して提出してください。ただし、「スクールソーシャルワーク教職員研修参加者修了レポート集」に収録させていただく際には、参加者の皆さんのお名前や所属は記さず、「教職員」または「相談員等」とさせていただきます。

■　修了証と参加証そして単位認定について

昨年の９月の開講初日に説明しましたように、①研修を行った７日間のうち６回以上出席し、②プレゼンテーションを行い、③修了レポートを提出くださった皆さんには、「修了証」を出し

ます。ただし、プレゼンを欠席された場合でも、発表レジュメ並びに修了レポートを提出くだされば「修了証」をお渡しします。また、諸般の事情でプレゼンを辞退された皆様には、「参加証」をお渡しして、本事業への参加、ご協力への感謝の気持ちをあらわしたいと思います。なお、修了証を授与された皆さんは、幼稚園、小学校、中学校の専修免許状にかかわる「教育の基礎理論に関する科目」のうち、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」（2 単位）を取得されたことを意味します。その証明書交付手続きは、３月７日に説明させていただきます。

■ 第5回（2015．２．７）のアンケートのまとめ

第５回の研修について、アンケートへのご回答ありがとうございました。「本日の研修で、理解が深められたり、有意義だと感じられたのはどんな点ですか。」についてのコメントを中心に紹介します。

１．同じ事例でも様々な立場の方が豊富な経験から話をされていて、自分一人でかんがえているときよりも視野が広がった。課題もクリアになってきた。

２．外：教師に求められる資質として「国際理解」というものが挙げられているが、それを実感した。多様化する文化、人種に、適切な方法で接するには、今までの手法では不足している…。現職教師や、教材研究で身に着けないといけない。

保護者：古い地域での出来事で、現在の勤務地を思い起こしながら受講しました。家庭がある地域まで思い起こせるようになりたいものです。

３．学校ができることは何か、学校の役割とは何かを考えることができた。学校がなかなか直接かかわれなくなったケースをどこからどう支援していくかと意見を出し合うことで方策がたくさん出た。目標を少し実現できそうなことに変えると支援策がたくさん出ることを体験できた。

４．個人だけをみるのではなく、家庭、地域も見据えて考えることの大切さが実感できた。この経験はすぐに生かせます。また、今まで自分が経験してきたことを再確認、検証できるよい事例検証でした。

５．SSW と教員の役割分担をしっかりすることの大切さ(「教員は学級づくり、子どもを育てるエキスパート」の言葉に、ハッと胸をつかれました)を再認識しました。

みんなで話し合うことで難しい課題でも解決の糸口が見えてくるので、学校でもなんとか話し合う時間を作らないと…と思いました。グループの先生が「実際の現場で、対応するとしたらうまくできるかなぁ」と言われたのが印象に残りました。残念なことですが、色々な先生がいて、うまく連携、協力できない現実があります。

６．課題を読み、自分なりに重要なポイントを押さえたつもりだったが、ケース会議をしてみると、別の着眼点があることに気づかされる。学校現場でもこのような機会を多く持つべきだと思うが、多忙に流れてしまうのが現実であり、非常に残念に思う。ぜひ多くの現職教員に機会を与えてほしい。

７．外国籍の子供支援の事例では、「文化の違い」という視点は置くものの、理解していないことが多いと心から感じた。田川先生のコメントには、目からウロコでした。多様性の視点を持ちつつ、学校の先生の強みはやはり授業の展開であるということです。（教師が多様性の理解を深める目的で授業を計画し、実施することは大変重要ということ。）

８．背景にあるものが、地域性など多方面に考えが広がった。母親の困り感が、クレームという形で学校に向かってくるので、学校の受け方…「困った親は困っている親」を学校に持ち帰り、先生

方に伝えたいと思います。
９．多文化ソーシャルワークという面で、学校教育という中で、いろいろな文化を受け入れて、その子に合った対応をしていくことは可能であると思う。しかし、やはり社会が変わらなければ、結局その子が世の中に出たときどうなるのか。その意味では、日本の文化の中で、物事を考えていくことも大切だと思った。
１０．事例の本人や関係者の強みを見つけていくことは、課題や対応を見出すためにとても有効だということがわかりました。大勢で話し合いをすると、違った視点からの話が伺え、有意義だと感じました。
１１．２種の方策を体験することで、今後活用の仕方を考えるにとてもよかった。
話し合うメンバーがそれぞれの強みを持ち備えているので、そこをフル活用した話しあいができ、達成感があった。
１２．２つのケース会議を経験して、それぞれのよさがわかったとともに、黒板の活用について学んだ。全員の考えをまとめ、その都度思考の流れを明らかにしてとても良いと思った。特に、「課題、ゴール、ターゲット、役割、内容」は活用したい！
11．いろいろな立場の者が前向きに発言すると様々な見方の意見が出て問題解決の糸口がみつかる、ということがわかりました。ホワイトボードを使って話し合いのまとめをする方法(前回の研修も含めて)を学ぶことができました。
12．いろいろな立場の方々の意見が聞けてとても勉強になった。課題、ゴール、ターゲット、役割、内容に分けて表にまとめることにより、より話し合いが活発になったと思う。
記録者として、自らが皆さんの意見をまとめるのはとても難しかったが、実際にやってみることでより理解ができた。班にソーシャルワーカーさんがいることで、自分とは違う視点が学べてとてもよかった。
13．仮想ではありつつも、こうした実践的な経験を積み重ねられることは、学問研究としてでなく、現場で生かしていくことを前提とした勉強としては大変ありがたいことだと思いました。学びを重ねるうちに、目の付け方や発想の仕方が共通になり、会議(練習)の質が高まっていくことを感じるにつけ、学び続ける姿勢はいかに大切かということを強く感じました。
14．エコマップ作りから、会議まで様々な事例を行うことにより、ケース会議の行い方がずいぶん理解できるようになってきました。学校に戻って、それぞれの場面に応じた対応が、学校全体でできるように実践していきたいと思います。
15．事例研究で他グループの視点を学べてよかった。外国籍の事例が特によかった。
16．グループ内で話し合い検討した内容以外にも、他のグループから他の意見や、より深い考えを聞くことができて、大変勉強になりました。グループ内でも、自分の考えだけでなく、ほかの先生方の考えをうかがえることで、新しい発見もできました。
複数で話し合ったり、チームでコンセンサスをとりながら支援方法を考えていくことの必要性を感じました。
17．現場(生徒に近い)の人間と、そうでない方とは、クローズアップ、フォーカスする点が違うのだなと思いました。生徒の中(内)に問題や解決の糸口があり、すべては生徒との信頼関係の構築だと思います。誰が「矢おもて」ではなく、だれが子に、母によりそうのか、と積極的に意見が交わされる現場であってほしいと思いました。
18．前回に引き続き、ケース会議を実際にしていく中で、少しずつアセスメントのポイント(視点)が理解できるようになってきました。自分だけではなかなか気づかないことも一緒に話をする中で、見えてくるものがありました。

ストレングスの視点も忘れがちなので、大切にしたいです。反面、TA さんがファシリテーターをしていただいて、時々アドバイスをいただけているので、まとまっていくこともあります。コーディネイトしていくことも大切だと思いました。
19. 両事例＋前回の事例で情報を如何に整理し、課題、ゴール、ターゲット、役割、内容と整理し、手だてを考えていく→具体的によくわかった。何が一番大切なことなのか、事例をグループ員で話し合うことで深く考えられるようになってきた。とても有意義であった。
20. 俯瞰的に事例を見ることができるようになった気がします。両方とも、目に浮かぶ事例でした。